



画像診断のはなし

新しいMRI装置が導入されました！

当院には2台のMRI装置がありますが、この度2台とも新しい装置が導入され、検査室内の壁や床も明るく生まれ変わりました。

■MRI検査とは

磁場と電磁波を用いて、体の様々な部位を様々な断面で画像にする装置です。放射線を使用していないので被曝の心配はありません。検査時には大きな音がなり、また狭い筒のような装置の中に入って検査するため、狭いところが苦手な方（閉所恐怖症）には辛い検査です。

■新しいMRI装置について

2台の新しいMRI装置についてご紹介します。



MAGNETOM Skyra Fit
シーメンス社製



Ingenia Elition
フィリップス社製

◆より快適に

2台とも開口部（装置の筒状の穴の部分）の大きさが70cmと広いデザインの装置です。以前より圧迫感が減り、部屋も明るくなりました。狭いところが苦手な方（閉所恐怖症）にも少しでも快適に検査を受けていただければと思います。

◆より検査時間を短く

装置が新しくなったことで、高速の撮影ができるようになりました。緊急を要する方や苦痛により長時間の検査に耐えることが難しい方には高速の撮影を行うことで、短時間で検査を終了させることができます。

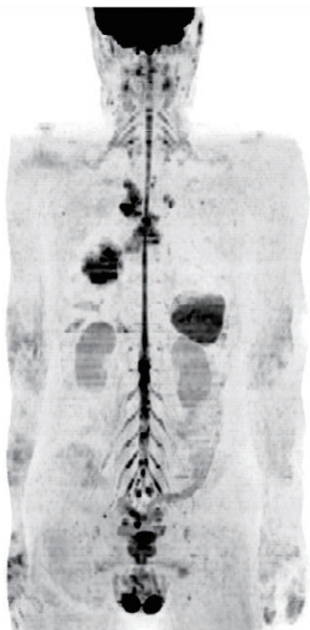
より画像が綺麗に

2台とも高磁場の3T装置になることで全ての検査で画質が向上し、より確信の持てる診断画像を提供できるようになりました。特に頭部の血管では、非常に細かい血管まで綺麗に撮影できるようになりました。

また、今まで行えなかった検査にも対応できるようになりました。造影剤を使わずに、下肢の血管や冠動脈（心臓の血管）の撮影ができるようになり、検査による患者さんの体の負担を大きく減らすことができます。また造影剤を使用しないため、造影剤アレルギーや気管支喘息など造影剤を使用できない方にも安心して検査を受けていただけます。

MRI検査に対して、「なんとなく怖い」という印象をもっている方もいると思います。たしかに心地の良い検査ではありませんが、新しい装置は患者さんの検査ストレスを減らすようにと改良されています。私たちスタッフも少しでも安心して、快適に検査を受けていただけるようサポートいたします。わからないことやご要望があればお気軽にご相談ください。

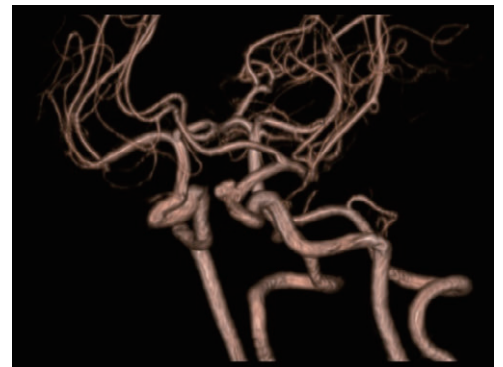
※MRIとMRAは検査装置・方法は同じですが、撮影した画像の処理方法が違い、描き出すものが異なります。MRIは断面画像を写し出すのに対し、MRAは血管を画像化する検査です。



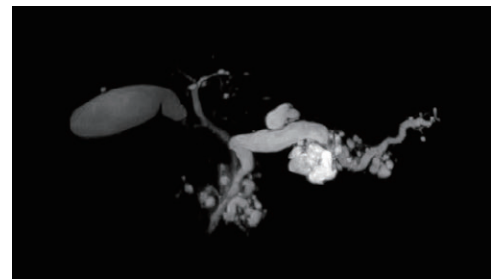
全身MRI 肺癌、多発リンパ節転移の症例



下肢 非造影MRA



頭部MRA 動脈瘤の症例



膵臓 混合型IPMNの症例

診療放射線科
柴田 友子

